

プライマリケア、OTC薬を対象とする

薬剤師の臨床判断ワークショップ 2013

対象症候『咳・呼吸困難』

患者が初めて医療システムに接し、適切な対応を受けるプライマリケアの場として、地域のドラッグストア、薬局の重要性が増しています。また、在宅医療で薬局薬剤師が、患者さんの病状の変化に、迅速、適切に対応することも期待されています。こうした場面で、OTC薬（一般用医薬品）を重要なツールとして活用することが、薬剤師の職能として求められています。医療の入り口を問わず、OTC薬を取り扱うプロの医療人としての意識と責任と能力が必要です。

適切なOTC薬や代替の方法を推奨するためには、まずは患者の病状を適切に判断する臨床判断のプロセスを学び、その指針を確立することが必要と考えています。日本アプライド・セラピューティクス学会では、良くある症候を対象とする『薬剤師の臨床判断ワークショップ』を積み上げながら、臨床判断の指針の確立を目指すことを行っています。昨年開催しました「薬剤師の臨床判断ワークショップ」では「頭痛」、「腹痛」を対象に取り組み、参加された方々には大きなインパクトを持って頂く会となりました。

今回は薬剤師が関わる医療の場として、薬局とともに在宅を想定し、代表的な症候の一つである「咳・呼吸困難」を取り上げます。皆さんは「咳・呼吸困難」を訴える患者に、薬局窓口や在宅でどのように対応されているでしょうか。患者の病態を反映する情報や所見を自ら収集して疾患を推測し、さらに薬剤師が適切な対処法を選択して（トリアージ）提案できるよう、演習と実習を通じて実践能力を向上させ、セルフメディケーションを支援するプライマリケアの担い手としての実力を向上させましょう。

日時：2013年11月9日（土）9:00～18:00（受付開始：8:30）

会場：昭和大学旗の台キャンパス（東京都品川区）

企画：木内祐二 先生（昭和大学薬学部）、狭間研至 先生（ファルメディコ(株)）

日本アプライド・セラピューティクス学会 OTC薬検討委員会

概要

1) 「咳・呼吸困難」に対する臨床判断

患者からの情報収集と疾患の鑑別

患者に対するトリアージのプラン作成

— グループ討議とロールプレイを中心に —

2) フィジカルアセスメント

基本的なバイタルサインの測定方法

— 聴診、血圧測定、触診などの実習 —

募集人数：40名（1グループ10名）

参加費：会員 5000円 非会員：10000円

参加申込：メールの件名を「臨床判断ワークショップ2013参加希望」として、氏名、所属、会員/非会員、連絡用アドレスをご記入のうえ、学会事務局宛お送りください

メールアドレス ats@mynavi.jp

詳細は、申込者に追ってお送りいたします。

参加締め切り：10月31日（先着順）

薬剤師研修センターの集合研修会となっております。（予定）

日本アプライド・セラピューティクス学会 OTC薬検討委員会

日本アプライド・セラピューティクス学会ホームページ：<http://www.applied-therapeutics.org/>